

† 追悼 ハイメ・ガラルダ神父へ

私の兄、ハイメ・ガラルダ神父は、2018年6月30日（土）14:30（日本時間 21:30）にアルカラのイエズス会老人ホームにて静かに息を引き取りました。96歳でした。

兄の死は大きな穴を残しました。

お年寄りで亡くなる人のために天の歓迎会は盛大ですが、この世から見送る友達は少ない。

しかし、7月4日に執り行われたハイメの葬儀に参列した人々は、聖イグナチオ教会の主聖堂のような教会がいっぱいになりました。

それは、彼がいつも「魂」だったからです。人々に命と元気を感させながらこの世を歩んできたからです。

親切で明るく、雷のような笑い声で周囲を明るくして、元気でフリーランサーのパイオニアでした。人を集めて人に仕事を任せるリーダーで余裕のある働き者でした。

極めて忙しかったにも関わらず、私が日本から帰国をしてスペインに滞在している間は ずっと私のためにスケジュールを空けてくれました。

良い意味で善い人でした。根本に忠実な人でした。考え方は広かったのですが、キリストにはまって最後までキリストに従いました。福音の根本を掴んで最後までそれを行いました。刑務所から釈放されても社会に戻れない人、麻薬依存者、つまり、社会から切り捨てられている人を深く愛して、その人々と共に最後まで生きることになりました。

メシアに対するイザヤの預言は、ハイメにも当てはまります。

「傷ついた葦を折らず、燵る灯心を消さない。」（イザヤ書 42：3）

ハイメは、1921年8月24日にマドリッド近郊のエル・エスコリアルで生まれ、72年前にイエズス会に入会しました。神学生時代にグラナダのジプシーを大いに助けたので「ジプシーの父」と呼ばれていました。また、「会社員の会」で貧しい若者たちの霊的指導者でしたし、600人の青少年を収容する7つの寮を作りました。長年、活発な「スペインの未亡人の会」の顧問をして、1964年にはパナマ共和国で最も貧しい人々を助けるネットワークを作りました。

1966年から16年間にわたって、マドリッドの貧しいスラムに住むことにしました。

それは、時々訪問するとか見学するとか、あるいはホーム・ステイをしに行つて来るようなことではなくそ

の中に住んでいました。そこは、麻薬・病気・ごみ・特に冷たい湿気の中で、のちにハイメ自身の死の原因となった病気の菌が肺に入ってしまったと思われます。

逆に言えば、その中にずっと生きていたくさんの人々はどうなっているのでしょうか。



1978年には「開かれた地平線 (Horizontes Abiertos)」という会を設立しました。

それは、囚人が刑務所から離れて生活を再建し、再び社会復帰できるまで、暫くの間、宿泊と食事とトレーニングを贈呈する NGO です。

一生懸命に資金を集め、たくさんの家を開いて千人以上のボランティアを集めました。

刑務所の指導者たちとよく相談して、「刑罰よりリハビリ」という刑務所の根本方針を願い求めました。2007年には、政府の援助を得て、マドリッドで Fundacion Padre Garralda (Horizontes Abiertos 財団) という大きな家を建てました。刑務所から出る麻薬依存者のリハビリテーション・センターです。そこには 100 人以上の人が一緒に泊まることもあります。

次第に経営や指導を協力者たちに任せて、自分は色々な本を書きながら Fundacion の霊的なインスピレーションを与えることに専念しました。

ハイメのお蔭で、極めて困っていた何万人もの人が助かりました。その功績が認められ、スペインとパナマの国から彼にたくさんの名誉ある勲章が授けられました。

しかし、逝ってしまいました。精神的な荷物を持って。

人生は天国へ持っていく荷物の荷造り期間です。

その荷物の中に入れるものは、自分の愛が人に感じさせた喜びです。

心が望む喜び、心を満たす喜びです。

荷物に入れるには、自分の愛の行いよりもその行いの結果です。

その愛を受け入れた人の喜びです。

それは、自分が電車の席を譲り座った高齢者の喜び、散歩に連れていった犬の喜び、水をもらった植木の喜びなのです。

ハイメは樹木と植木が大好きでした。

つまり、ハイメが助けた非常にたくさんの人の喜びは、彼の貴重な荷物でした。

わたしたちのトランクに入っている人の喜びは「お帰りなさい」といって歓迎してくださる御父へのおみやげなのです。人生の旅で集めたおみやげそのものです。

御父はそれをリサイクルしてこの世で悩んでいる人々に与える喜びだと思います。

ところが、6月30日、天国の門番である聖ペトロは驚きました。

「何ですか？このたくさんのコンテナの大騒ぎ！」に天使たちは答えました。

「ハイメ・ガラルダ神父の荷物です。」

ハイメが空間と時間の次元を超えて無限のここに永遠に今を生きるとわたしたちは信じます。たとえわからなくても、全然違った状況にまさしく同じハイメは生きると信じます。ハイメはじっとしているようですが、全速力で動いている扇風機もじっとしているようです。

ハイメは今こそ幸せです。また会えます。

非常に善い人でした。非常に良い兄でした。

本当にありがとう。強い抱擁。では、では…。

あなたの弟ハビエルより。

